

立岩ファームコース

伊万里フットパス協会 090-5478-7691 (松永)



明治二十四年の佐代川の氾濫による大被害の復旧と農業振興と農協の前身である西山代西部信用組合を発足した。

フットパスとは

森林や田園地帯、古い街並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩く小径のこと。

地域が守ってきた地域にしかない魅力を、ランブリング（ぶらぶら歩くこと）や交流を通して、歩く人自身が発見し、その地域の素晴らしいさを感じていただきます。

フットパスの楽しみ方

セルフ フットパス

マップを購入して自由に歩く、天候・時間と相談しながら、自分のペースで歩きましょう。

随時開催されるイベントに参加して、フットパスの仲間を増やすのも楽しみのひとつです。

フットパスイベント（体験会）

地域の祭りや季節のイベントに合わせて開催するため、地域の文化・歴史を知ることができます。参加者同士の交流も魅力です。

フットパスのルール

- ①ゴミはきちんと持ち帰りましょう。
- ②動植物、田畑に植えられた作物や植物は採取してはいけません。
- ③そこで暮らす動物や作物を荒らしたりしてはいけません。
- ④火災予防のため、火気の取り扱いには細心の注意を払いましょう。
- ⑤地域住民の生活にとって、迷惑となるような行為はやめましょう。
- ⑥気象条件や野生動物に十分注意しましょう。

佐代姫伝説を語り継ぐ

佐代姫伝説は日本三大悲恋物語の一つとされ、6世紀の頃、唐津から朝鮮半島へ出征する夫を見送った佐代姫が、悲しみのあまり最後は石になったというのは広く知られています。

それに似たような物語が各地区に残り、伊万里市の佐代姫は夫を追い掛け出帆したものの難破し、立岩地区の海岸に流れ着いたとされています。

亡くなった佐代姫が乗った小舟が立岩の海岸に流れ着いた時、村人たちが佐代姫を埋葬した石塚を、佐代姫塚と言われています。

佐代姫塚は、元々は海岸にあったが江戸時代から続いた干拓工事でこの地に移されました。その後、伊万里松浦病院の中庭にあったが、令和2年11月の移転に伴い、隣接する佐代姫神社の境内に移設されました。これを機に、住民有志で佐代姫保存会をつくり、町おこしに生かす取り組みをはじめました。

佐代姫神社は明治時代になって塚に近い南方の現在地に新たに社を建て、佐代姫を主神として祀られました。

村の神社で漁師の崇敬が特に厚かった。大伴狭手彦が姫の霊を祀って高麗焼に神饌を盛ってお供えしたと称する壺が社宝になっています。

佐代姫神社の周辺には、佐代姫にまつわる地名が有り、佐代搦・佐代田原・黒藻・佐代の上などの地名があります。また、山間を流れる川を佐代川と言われています。

佐代姫保存会